



環境学の

授業拝見!

理学、工学、人文社会科学、異なる専門領域の学生がともに学ぶ環境学研究科ならではの授業です。



角皆 潤 教授

中川 喜子 准教授

伊藤 昌維 特任助教

【今回の授業】 **物質循環科学セミナー** 【担当教員】

物質循環科学セミナーでは、大気・海洋・陸域といった「地球表層システム」における炭素・酸素・水素・窒素・硫黄といった親生物元素の循環像、特に、地球温暖化やオゾン層破壊、大気汚染、水質汚濁や富栄養化といった地球環境問題と深い関わりのある「環境物質」の生成から消滅までの循環像を把握することを目的とした最新の研究例を学びます。

受講生は、欧文誌に掲載された環境物質の生成・消滅プロセスの解析や循環速度定量に関する最新の論文を読み、その内容を著者に成り代わってプレゼンテーションします。内容を理解してこれを披露することに加えて、口頭発表の技能を向上させることも目的としています。ここで培われたプレゼンテーション能力は、学会発表はもちろん、将来社会に出た後の様々な発表場面で役に立つと思います。

また、自然環境を相手にした本セミナーでは、教室にこもって勉強するだけではなく、一年に数回程度、フィールド調査実習を取り入れ、物質循環速度の定量化を行う上で必要となる分析技術や試料採取方法を学びます。河川や湧水、湖沼といった身近な陸水環境の調査を中心にしています。



時には積雪中の気体成分④や富士山などの湧水⑤も調査します。



防水胴長をはいて河床を調査したり②、水質分析用に河川水①や湧水③を採取します。

山本 雄大さん (M1 地球環境科学専攻・大気水圏科学系・生物地球化学グループ)
Yudai Yamamoto

物質循環科学セミナーでは、各々の研究分野に関連する欧文誌の論文を各自で選び、著者に代わって口頭発表します。聴衆が理解できる発表をするためには、自分自身がその論文を深く理解することが不可欠であるため、本文のほか引用文献なども読み込む必要があります。発表準備には毎回多くの時間をかけています。しかし、苦勞した分、研究分野に対する見識を深められるほか、発表技術などの将来必要となるスキルを磨くことができ、自分を成長させる上で有益であると考えています。フィールド調査では、私は河川や湖沼の観測を中心に行っており、時にははずぶ濡れになりながらも、教室ではできない貴重な経験を積むことができ、また自然と触れ合うことでリフレッシュもできます。

